

大阪市立 三先小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校教育目標

自ら考え、判断し、行動する子どもを育てる  
～Learning over Education(教育から学びへ)～

2 めざす子ども像

- ・自分で判断できる子
- ・思いやりのある子
- ・たくましい子

3 学校運営の中期目標

**現状と課題**

＜学力面＞

平成25年度の全国学力・学習状況調査の結果から、国語では、下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的事項の定着に不十分なものが見られた。国語B問題の結果は、全国より高い正答率となっている。しかし、文章を読んで自分なりの意見を書く力は付いてきているが、引用したり複数の内容を関連付けたりしながら自分の考えを書くことについては、まだまだ課題が見られた。算数では、A問題の結果を見ると、全国平均とほぼ同等であり、数と計算・数量関係の領域で特に高い値を示していた。B問題は、ほとんどの項目が全国平均を上回っており、特に図形の領域で高い値を示している。しかしながら、生活の様々な場面に活用する力は不十分と言える。

一方「学習理解度到達診断」は、算数ではほぼ目標数値を達成したものの、国語では、学年内ではばらつきがあるだけでなく、目標数値も達成できなかった。

児童の学力の向上をめざして全教員が年1回研究(公開)授業を行っており、学年や研究推進委員会で指導方法について論議を重ね、指導後も研究討議会等を行うことで、指導力の向上を図ってきている。若手研修も伝達研修を中心に年5回程度実施している。

＜健康・体力面＞

平成25年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果からは、「握力」や「ボール投げ」では全国平均を上回っているが、他の種目は下回っており、特に男子では、「反復横跳び」「20mシャトルラン」、女子では「長座体前屈」「反復横跳び」で、全国との差が顕著となっていた。体育の授業では、「授業が楽しい」「運動が好き」「丁寧に教えてもらえる」と回答する児童が多いが、女子では『運動離れ』が、男子では『運動の二極化』が進んでおり、授業で「できた・わかった」という達成感を持たせる指導を工夫するとともに、健康の保持増進や体力の向上が自分にとって大切なことであることを知識として理解できるようにする必要がある。

毎日の朝食や睡眠時間については、日々の児童観察を十分に行い、学習指導や保健指導・食育についての指導などを以前から行ってきたことが成果となって表れてきている。また、「給食だより」や「がんばりカード」の活用により、好き嫌いなく食べようとする意識も高まっている。しかしながら、正しい姿勢についての意識付けや実践については、まだまだ課題が見られた。

#### < 道徳心・社会性の面 >

自らすすんであいさつをする児童の割合は高く、これまでの指導の成果が出ている。また、「三先防災の日」の学習等を通じて、防災意識も高まってきている。自尊感情を高める取り組みやいじめについては、道徳の時間だけでなく、学校教育活動全体を通じて継続指導しているが、「いじめ0」には至っていない。

特別支援教育に関しては、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、個に応じた指導に努め、それを活かした研修会も実施できた。今後は ICT 機器等も利用しながら、よりよい支援活動を模索していく。

#### < 学校・家庭・地域との連携に関して >

ホームページや学校だより・学年だより等を通して、学校行事や学年での取り組み、委員会活動、保健指導、給食のようす、児童朝会や児童集会の児童のようす等を随時知らせ、情報公開を行った。

#### 中期目標

##### 【視点 学力の向上】

- ① 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査において、国語・算数ともに全国平均を上回る。(カリキュラム改革)
- ② 児童や保護者アンケートの基礎・基本の定着に関わる項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える割合を 80%以上とする。(カリキュラム改革)
- ③ 平成 27 年度中に、全学年で英語の参観授業が実施できている。(グローバル改革)
- ④ 全教員が年 1 回研究・公開授業を行う。(マネジメント改革)
- ⑤ 若手研修を年 5 回以上実施し、伝達講習等を通して指導力の向上を図る。(マネジメント改革)

##### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成 27 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、実施する学年（3～6 年）の合計得点の平均点を 25 年度より 5 点上回る。(カリキュラム改革)
- ② 健康な生活習慣のための保健研究・食育の充実 (カリキュラム改革)

##### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 「いじめ0」に向けて、組織的に対応し解決できる体制をつくるとともに、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童を育てる。(マネジメント改革) (カリキュラム改革)
- ② 児童・家庭・地域が一体となった組織的な防災体制と訓練ができている。(マネジメント改革) (カリキュラム改革)
- ③ 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活かした研修会を年 2 回実施する。(マネジメント改革)

##### 【視点 学校・保護者・地域の連携の推進】

- ① 学校ホームページや学校だより・学年だより等による広報活動を充実させ、平成 27 年度末「保護者アンケート」において「学校は情報公開を行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。(ガバナンス改革)

#### 4 中期目標の達成に向けた年度目標

##### 【視点 学力の向上】

- ① 学力向上と主体的に学習する児童の育成をすすめる。(カリキュラム改革)
- ② 児童や保護者アンケートの基礎・基本の定着に関わる項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える割合を80%以上とする。(カリキュラム改革)
- ③ 平成27年度中に、全学年で英語の参観授業が実施できている。(グローバル改革)
- ④ 全教員が年1回研究・公開授業を行う(マネジメント改革)
- ⑤ 若手研修を年5回以上実施し、伝達講習等を通して指導力の向上を図る。(マネジメント改革)

##### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成27年度の全国体力・運動習慣等調査において、実施する学年(3～6年)の合計得点の平均点を25年度より5点上回る。(カリキュラム改革)
- ② 今年度末の「学校アンケート」(児童用)で、「休み時間の後に手洗い・うがいをしている」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)
- ③ 今年度末の「学校アンケート」(保護者・児童用)で、「給食を残さず食べようとしている」「家庭で好き嫌いなく食べ、良い食習慣が身に付いている」と答える割合を80%以上とする。(カリキュラム改革)

##### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 「いじめ0」に向けて、組織的に対応し解決できる体制を作るとともに、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童を育てる。(マネジメント改革)(カリキュラム改革)
- ② 児童・家庭・地域が一体となった組織的な防災体制と訓練ができている(マネジメント改革)(カリキュラム改革)
- ③ 「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を活かした研修会を年2回実施する。(カリキュラム改革)

##### 【視点 学校・保護者・地域の連携の推進】

- ① 学校ホームページや学校だより・学年だより等による広報活動を充実させ、平成27年度末「学校アンケート」(保護者用)において「学校は情報公開を行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。(ガバナンス改革)
- ② 地域の人材や施設を活用し、学校・保護者・地域の連携を深める。(ガバナンス改革)